

様式1(主な取組)

活動指標名	インプット型セミナーの開催				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	-	4	4	100.0%	0	順調	外国人及び県民の親子を対象に外国語の絵本の読み聞かせを実施していたが、コロナ禍のため、グローバルマインドを育成するインプット型セミナーを実施。 県内に在住する外国人へ日本語で主張する機会を提供し、相互理解の増進と友好親善を促進する活動を実施した。
活動指標名	外国人による日本語弁論大会(応募者数)				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	-	16	16	100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
活動指標名					R2年度					国際社会において主体的に行動できる人材を育成するため、様々な国際理解の場を提供することとしており、沖縄科学技術大学院大学の研究者及びスタッフと連携により、次世代を担う高校生から大学生程度の若者を対象にセミナーを定期的実施している。 (全4回 延べ40名参加)
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
・財団ホームページの多言語による情報発信と各国際交流団体やNPO法人との更なる連携により、事業の推進を図る。						・九州地区地域国際化協会連絡協議会や実務者研究会へ参加し、取組の情報収集を実施。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・事業主体を自治体国際化協会沖縄県支部に変更したことで、柔軟な企画実施が可能となっている。

○外部環境の変化

・在住外国人の多様化に対応した外国語に親しむ機会の創出が求められている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・在住外国人が気軽に社会参画出来るイベント等の取組が必要。

4 取組の改善案 (Action)

・沖縄科学技術大学院大学との継続的な実施や日本国際連合会協会等との更なる連携により、相互理解や友好親善を図る取組を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-ア	国際社会、情報社会に対応した教育の推進	施策	① 外国語教育、海外交流・留学等の充実
			施策の小項目名	○留学派遣及び海外教育機関等との交流
主な取組	次世代ウチナーネットワーク育成事業(一部)			
対応する主な課題	②国際的視野を持ち、国際社会において主体的に行動できる人材を育成するため、外国語教育の充実、国際理解教育の推進及び留学や外国人との交流などを通じた実践的なコミュニケーション能力の向上等を図る必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
海外県系人子弟と沖縄県の青少年が互いに交流、研鑽する場を設けることにより、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。		30人交流人数				40人(ウチナーフェスティバル大会時)
		10人派遣数				
実施主体	県					県内に海外県系人子弟を招聘し、県内学生との交流事業を実施
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部交流推進課 【098-866-2479】					県内学生を海外県人会宅に派遣し、ホームステイによる交流事業を実施

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
ウチナージュニアスタディー事業							当初予算額	主な財源		
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額				
県単等	委託	17,501	13,807	14,854	14,763	252	11,829	県単等	OR2年度： 令和元年度に沖縄県が作成した沖縄の県系移民に関する教材を英語・スペイン語に翻訳して海外県人会に送付した。 OR3年度： 県系人子弟19名(うち県外1名)と県内の同年代16名をオンラインで繋ぎ、沖縄の歴史や文化等を学習するプログラムを実施する。	

様式1(主な取組)

予算事業名 海邦養秀ネットワーク構築事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 県内の若者10名を海外に派遣し現地海外県人会との交流等を予定していたが、新型コロナの世界的な蔓延により事業を中止した。 OR3年度： 新型コロナの終息が不透明なため、オンラインによる県内の若者と海外県人会との交流や、交流先の歴史や文化について学ぶ研修を行う。	
県単等	負担	5,111	5,111	5,111	5,111	0	3,987	県単等		
活動指標名	【ウチナージュニアスタディー事業】交流人数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要 コロナ禍により、海外からの受入れ・派遣が中止となった。海外でも沖縄について学べるよう、R1に作成した県系移民やウチナーネットワークに関する学習教材を翻訳し、海外県人会へ提供した。
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	44	33	33	33	0	33	0.0%	252 大幅遅れ	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 コロナ禍により、海外からの受入れ・派遣が中止となった。海外県人会へ県系移民やウチナーネットワークに関する学習教材を提供し、コロナ禍で海外との往来が困難な中でも、現地で沖縄の歴史や文化について学び、次世代を継承する人材の育成と海外とのネットワーク構築に繋がっている。	
活動指標名	【海邦養秀ネットワーク構築事業】派遣人数				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	10人	10人	10人	10人	0	10	0.0%			
活動指標名	移民の歴史啓発に係る教材の多言語化				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要 コロナ禍により、海外からの受入れ・派遣が中止となった。海外県人会へ県系移民やウチナーネットワークに関する学習教材を提供し、コロナ禍で海外との往来が困難な中でも、現地で沖縄の歴史や文化について学び、次世代を継承する人材の育成と海外とのネットワーク構築に繋がっている。
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	実施	—	100.0%			

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和2年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none">各交流事業参加者がOBOGも含めて集う場を作り、個々人の「世界のウチナーネットワーク」に対する意識の維持向上と参加者間のネットワーク構築を図る。	<ul style="list-style-type: none">次世代を継承する人材の育成と、その人材同士（沖縄+海外）のネットワークを構築するために、オンラインイベント「World Youth Uchina Shinka Online」を実施し、県内及び海外の若者が参加した。県系移民についての学習を目的として作成した「レッツスタディー！世界のウチナンチュ」教材を英語・スペイン語に翻訳して、国内外の沖縄県人会に送付し、啓発活動を行った。



3 取組の検証 (Check)

(1)推進上の留意点（内部要因、外部環境の変化）	
<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルスの感染拡大により、留学生受入や海外派遣、県内におけるイベント関係は殆ど中止となった。その代替手段としてオンラインを活用した事業が多く実施された。	<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルスの感染拡大により、海外との往来が全面的に中止となるとともに、海外ではロックダウンにより県人会活動活動も殆ど実施できなくなった。海外県人会等では、直接集まることが難しくなったことをきっかけに、世代を超えてオンラインによる交流が活発化した。
(2)改善余地の検証（取組の効果の更なる向上の視点）	
<ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルスの影響は当面続くと思込まれることから、その流行継続を前提としつつ、各種交流活動を維持できる事業を計画していく必要がある。	



4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none">オンラインを中心とした交流を強化することで、海外との往来が困難な状況でも関係者との良好な関係性を維持し、安定的なウチナーネットワークの継承・発展に取り組んでいく。
